

2014
知の玉手箱

久留米大学
「御井図書館編」

未知な本と出会う喜び

<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>

『知の玉手箱 2014』発行にあたって

図書館 利用の ススメ

『知の玉手箱 2014』編集委員
久留米大学商学部
教授 異島 須賀子



近年、新聞や書籍などもデジタル情報化され、手軽に読書を楽しめるようになった。デジタル情報が便利であることは間違いない。しかしながら、同じことが書かれていたとしても、現物は、デジタル情報では得ることのできないものを伝えてくれる。現物は、紙の質感、香り、紙をめくる音、印刷のかすれなど、文字情報だけでなく、わたし達人間の五感のうち、触覚、嗅覚、聴覚、視覚の4つにうったえるものがある。子どもの頃に読んだ絵本を思い出してみよう。子どもの頃に読んだ絵本を手にとれば、たとえ文字を読まなくても、その絵本の質感や香りだけで、絵本の内容はもちろん、子ども時代の懐かしい思い出が色鮮やかによみがえってくるだろう。これがデジタル情報にはない現物の魅力である。

また、図書館で文献を探すさいには、目当ての本を事前に検索して行ったとしても、目当ての本がある本棚の上下左右に配架されている数多くの本が目に入ってくるだろう。そして目当ての本だけでなく、関連するいくつもの本と出会うのである。とくに目当てがなく、なんとなく本棚に並んでいる本を見て回っているときに、ふと手に取る本との出会いもある。本はわたし達の知らない時代や国や分野との出会いにつながる。こういった出会いこそが図書館の醍醐味である。

大学図書館には専門書ばかりでなく、絵本、各国の新聞や雑誌、昔の貴重な資料など数多くの現物が所蔵されている。在学中に、一度は図書館に足を運んでほしい。あなたほどんな未知との出会いを体験するのだろう。

最後に、『知の玉手箱 2014』に原稿を寄せてくださった皆さまと、編集にご協力くださった図書館職員の方々に心からのお礼を申し上げたい。

- 知の玉手箱 2014』発行にあたって
—— 異島 須賀子 (久留米大学商学部)

文芸 (小説) P3

- 01 ■ 田中久重
— 小説 明治維新を動かした天才技術者
／童門 冬二 著
—— 永池 克明 (商学部)
- 02 ■ 水神 上・下／常木 蓬生 著
—— 河内 千栄子 (法学部)
- 03 ■ 境遇／湊 かなえ 著
—— 愛甲 悠 (商学部学生)
- 04 ■ 舟を編む／三浦 しをん 著
—— 山下 晶史 (法学部学生)
- 05 ■ どんぐり姉妹／よしもと ばなな 著
—— 孫 シュエティン (商学部学生)
- 06 ■ 30日間マクドナルド生活
— 自分の体で実験してみました
／マツモト ケイジ 著
—— 江藤 友里 (文学部学生)
- 07 ■ 親指さがし／山田 悠介 著
—— 岩藤 勇人 (法学部学生)

文庫・新書 P6

- 08 ■ よくわかる日本経済入門／塚崎 公義 著
—— 塚崎 公義 (商学部)
- 09 ■ 政府は必ず嘘をつく—アメリカの「失われた10年」が私たちに警告すること
／堤 未香 著
—— 辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)
- 10 ■ バレード／吉田 修一 著
—— 和智 麻里 (法学部学生)
- 11 ■ 龍馬の黒幕—明治維新と英国諜報部、そしてフリーメーソン／加治 将一 著
—— 宮原 一生 (法学部学生)
- 12 ■ 23分間の奇跡／ジェームズ・クラベル 著
—— 中野 佑紀 (法学部学生)
- 13 ■ すべてがFになる／森 博嗣 著
—— 大久保 優希 (商学部学生)
- 14 ■ 彼岸過迄／夏目 漱石 著
—— 富崎 優花 (商学部学生)
- 15 ■ 不可能性の時代／大澤 真幸 著
—— 浦元 駿 (文学部学生)
- 16 ■ 広田弘毅 —「悲劇の宰相」の実像／服部 龍二 著
—— 島崎 一真 (法学部学生)

人文・教育 P11

- 17 ■ 韓国はなぜキリスト教国になったのか
／鈴木 崇巨 著
—— 河内 千栄子 (法学部)
- 18 ■ 日本をダメにした B 層の研究／適菜 収 著
—— 満留 圭史 (文学部学生)
- 19 ■ ディコンストラクションI、II／ジョナサン・カラー 著
—— 河井 俊博 (文学部学生)

社会・経済・時事・ノンフィクション P12

- 20 ■ 人はなぜ勉強するのか
— 千秋の人 吉田松陰／岩橋 文吉 著
—— 永池 克明 (商学部)
- 21 ■ リスクのモノサシ—安全・安心生活はありうるか／中谷内 一也 著
—— 辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)
- 22 ■ 地を這う祈り／石井 光太 著
—— 辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)
- 23 ■ 稼ぐが勝ち—ゼロから100億、ボクのやり方
／堀江 貴文 著
—— 杉本 瑠伶 (法学部学生)
- 24 ■ スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン
— 人々を惹きつける18の法則
／カーマイン・ガロ・井口 耕二 著
—— 法村 和幸 (商学部学生)
- 25 ■ 人生はワンチャンス！
— 「仕事」も「遊び」も楽しくなる65の方法
／水野 敬也・長沼 直樹 著
—— 増本 雄介 (商学部学生)

自己啓発 P15

- 26 ■ 人生がとぎめく片づけの魔法／近藤 麻里恵 著
—— 加賀田 沙織 (文学部学生)

理工 P16

- 27 ■ 食の安全と環境—「気分のエコ」にはだまされぬ
／松永 和紀 著
—— 辻本 尚弥 (健康・スポーツ科学センター)
- 28 ■ 科学とはなにか—科学的説明の分析から探る科学の本質／森田 邦久 著
—— 浦元 駿 (文学部学生)
- 29 ■ 量子革命—アインシュタインとボーア、偉大なる頭脳の衝突／マンジット・クマール 著
—— 黒田 圭吾 (経済学部学生)

スペシャル選書 教員の視点から P17

- 奥井 秀樹 (商学部)
- 30 ■ 模倣の経営学—偉大なる会社はマネから生まれる／井上 達彦 著
- 31 ■ トイレ掃除の経営学—Strategy as Practice アプローチからの研究／大森 信 著
- 32 ■ 自律する組織人／鈴木 竜太 著
- 33 ■ 地域産業の新たな展開—九州・山口からの挑戦／財団法人九州経済調査協会 編
- 34 ■ 全契約社員の正社員化—私鉄広電支部・混迷から再生へ(1993~2009)
／河西 宏祐 著

「本学 OPAC」で簡易検索 P20

■ 御井図書館ホームページ

ウェブサイトを活用して図書館の達人になろう P22

本書で紹介された書籍類はすべて久留米大学御井図書館に所蔵されています



01

田中久重

小説 明治維新を動かした天才技術者

童門 冬二 著／集英社インターナショナル社 刊 …………… ￥1,700 (税別)

久留米が生んだ儀右衛門から学ぶ。

皆さんは久留米発の企業といえばブリヂストン株式会社を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、実はもう一つ久留米が生んだ日本を代表する企業があります。それは総合電機メーカーの東芝です。東芝の創始者は実は1799年久留米生まれの田中久重別名「からくり儀右衛門」です。田中久重は有馬藩の城下町久留米通町十丁目^{（たおりまち）}で生まれました。父親は龜甲細工職人^{（かめこう）}でした。久重は幼少期から手先が器用で、そろばんや学問も優秀で神童といわれていました。久重は近くの五穀神社で行われる祭礼の呼び物からくり人形で有名になりました。また、隣の佐賀鍋島藩に招かれ、蒸気機関や大砲(アームストロング砲)などの先端技術開発にも携わりました。明治になってその才能を見込まれ明治政府に請われて73才で上京、銀座に電信機関係の製作所・田中製造所を設立。これがのちの芝浦製作所(東芝重電部門)となり、現在の東芝の基礎となりました。高い志を持ち、創造のためには自らに妥協を許さなかった久重は、「知識は失敗より学ぶ。事を成就するには、志があり、忍耐があり、勇気があり、失敗があり、その後、成就があるのである」との言葉を残している。郷土の大先輩について学ぼう。

●永池 克明(商学部)



02

水神 上・下

帚木 蓬生 著／新潮社 刊 …………… ￥1,500 (上・下/税別)

命がけで筑後川に堰を作った実話からの小説。

本学の校歌「大河は悠々われらが修学のふるさと」にも出てくる筑後川は昔「暴れ川」と呼ばれ、流域の農民は洪水や日照りで年貢も収めがたく、餓死者が出るくらいであった。そこで流域の五人の庄屋が自分たちの全財産と命をかけて、筑後川に堰を作ったという江戸時代の実話を基にした小説である。この大事業を、庄屋と打桶(土手から桶を水面に投げ下ろして水を汲み土手の反対側に流す)を仕事とする元助の目を通して語られる。当時の百姓たちの生きる苦勞、反対する他の庄屋との確執、財政難のため費用は出さず、しかし藩の面子が第一の久留米藩。「ばってん、あしたの召喚では、この費用については、藩の面子をつぶさんごと、あくまで下から言わんといけません。費用は自分たちが出すけん、文句はなかるう、という態度はくれぐれも見せんごとしなされ」。本書の魅力はこのような登場人物のセリフ。堂々たる「筑後弁・ちっごべん」が心に沁みる。

●河内 千栄子(法学部)

03

境遇

湊 かなえ 著/双葉社 刊 ¥1,400 (税別)

●愛甲 悠(商学部学生)

読書好きにこそお勧めしたい一冊。

湊かなえの作品は後味が悪いというのが私の中の印象である。私が初めて湊かなえに触れたのがR15指定映画となつた「告白」である。彼女の作品の中に聖母のような出来た登場人物は存在しない。彼女の作品の中に生きているのは実に人間味に溢れた、汚く黒い感情を抱えたリアルな人間だ。だからこそ読んでいてどこか後味が悪く、甘ったるいパステルカラーが詰め込まれた小説なんかよりはずっとずっと面白い。私は読書好きにこそ湊かなえの書をお勧めしたい。

本書は初めて湊かなえに触れる人に前菜として読んでほしい。有名な「告白」や「夜行観覧車」は少々毒気が強い為、初心者にはお勧めしない。ページ数もそれほどない為、本を多少なりとも読んでいる人ならば3時間もあれば読み終えるだろう。どうか一気に読み終えてほしい。読み終えた後、作者にしてやられたなと感じたら是非他の作品も手に取ってみることをお勧めする。ようこそ、湊かなえの世界へ。

04

舟を編む

三浦 しをん 著/光文社 刊 ¥1,500 (税別)

●山下 晶史(法学部学生)

前向きに目標へ向かうことができるでしょう。

私はこの本を読むまでは辞書はただの言葉の意味を調べる本としか思っていませんでした。しかし読み終えてみると辞書への考え方が変わりました。

この本は一つの辞書を作るのに十五年という長い時間を費やしてその辞書を作っていく中で様々な人間ドラマがあります。恋愛、人事異動、親しい人の死などの多くの試練を主人公たちは乗り越えていきます。辞書の製作過程の中で単語の意味一つ一つを正確に調べ、他の辞書と比較する作業があります。それはものすごく根気のいる仕事で気が遠くなりそうだと思いました。遂に辞書が完成した時には、私まで嬉しくなり感動しました。人間はたくさんの人に支えられているということを改めて実感し、主人公たちは長く困難な道のりであっても諦めないで継続したからこそ、辞書完成というゴールへ辿り着いたのだと思います。

この本を読めばきっと勇気を持って目標に向かい努力を継続できるという前向きな気持ちになるでしょう。



05

どんぐり姉妹

よしもと ばなな 著/新潮社 刊…………… ¥550 (税別)

●孫 シュエティン(商学部学生)

未来に向かって強く生きていけることを教えてくれる一冊。

姉の名前はどん子、妹の名前はぐり子。幼い頃に交通事故で両親を失った姉妹。その後、叔母に医者との結婚を迫られて、ふたりは逃げた。しかし、妹が胃がんになったため、ふたりは祖父のところへ行き、気難しい祖父が亡くなるまで世話をした。姉は雑誌ライターの仕事でお金を稼ぎ、妹は病気で家にいた。そして、すべての苦しみが終わった日、ふたりは小さな相談サイトを作り、「どんぐり姉妹」という名前を付けた。このサイトで、ふたりは迷っている人や淋しい人にアドバイスをした。

この姉妹は自分の不幸に落ち込むこともなく、小さな光でも美しく輝き、ふたりで力を合わせて他人を癒していた。楽しみの悲しみある生活の中、「愛」と「希望」を持っていれば、未来に向かって強く生きていけることを教えてくれる一冊である。



06

30日間マクドナルド生活

自分の体で実験してみました。

マツモト ケイジ 著/祥伝社 刊…………… ¥1,200 (税別)

●江藤 友里(文学部学生)

大事なのは思い込みではなく、自分の頭と体で感じ確かめたこと。

アメリカでかつて「スーパーサイズ・ミー」という映画が公開された。監督自ら30日間マクドナルドの商品のみを食べて生活するという企画のドキュメンタリー映画で、21日目でドクターストップがかかるという結果となったそうである。果たしてこれを30日間続行し続けた場合何が起こるのか、日本人の著者が自分の体で命知らずの実験に出る…。

ここまでの紹介を聞いて、皆さんはどのような結果が待ち受けているとお感じになられたでしょうか？著者の体は大丈夫なのだろうか、どんなすさまじい体調不良に陥ったのだろうか、といったことを想像する人が大半かもしれない。私は、この結末をおそらく誰も想像していないだろうと思う。そして読者は「大事なのは思い込みではなく、自分の頭と体で感じ確かめたことである」という、ごくごく当たり前のことに気づかされるだろうと考えている。

同著者による「30日間カップ麺生活」「30日間避難生活」も合わせて収録されている。

07

親指さがし

山田 悠介 著/幻冬舎 刊…………… ¥495 (税別)

●岩藤 勇人(法学部学生)

事件の真相を知るため、再び別荘へ…

「親指さがして知ってる？」由美が聞きつけてきた噂話、ある別荘にいた女の人がバラバラにされて殺されたが、左手の親指だけがない。それを、探してあげる。このゲームを武たち5人の小学生は、軽い気持ちで始めてしまった。由美の言われた通りにゲームを進めると、本当に幽体離脱して、親指を探す別荘に飛んだ。最初の恐怖が、スリルに変わり2回目を実行した。2回目終了後、由美の姿がなく、行方不明になった。破ってはいけないルール、「肩を叩かれたら振り返るな!!」これを由美がしてしまったのだろうか!?

それから7年、由美の事を、忘れようとしてじめに4人で親指探しをもう一度始める。だが、親指探しのゲームは、開始されなかった。武は、親指探しの事件の真相を知るため、3人を呼び、別荘に行った。別荘がある村に着くと、一人の老人に「別荘には絶対に近づくな」と、言われたが武たちは、別荘に入った。別荘はやはり、親指探しのゲームで幽体離脱して行った、あの別荘だった。

その別荘では、いったい何が、

08

よくわかる日本経済入門

塚崎 公義 著/朝日新聞出版 刊…………… ¥780 (税別)

日本経済の基本を理解する。

日本経済の事は、様々なニュースなどで知っているつもりでも、全体像を知っている人は少ないものです。それは、日々のニュースが「日本経済の全体像を理解している人のための追加的な情報」だからです。

そこで、拙著の御紹介で恐縮ですが、経済ニュースを理解するために必要な経済の常識を幅広くカバーした本書を早いうちに一読しておく事をお勧めします。経済の事を知らない人が読んでも理解しやすいように、できるだけわかりやすく書いたつもりですので、とにかく一度、手に取ってみてください。

日本経済について基本的なことを理解しておくことは、就職活動に際しても重要です。皆さんの多くは企業に就職することになるので、日本経済がどのように動いているのかを知り、経済のニュースを読んで理解しておく必要があるのです。就職するためばかりではなく、就職してからも日本経済の知識は役に立つ事が多いはず。是非一読を。

●塚崎 公義(商学部)



09

政府は必ず嘘をつく

アメリカの「失われた10年」が私たちに警告すること

堤 未果 著／角川マガジンス 刊…………… ¥780(税別)

3.11以降に同様な道を行んでいる日本に警鐘を鳴らす。

刺激的なタイトルの本書だが、いわゆる陰謀論ものではなく、インタビューやデータをもとにした社会情勢分析とその批判が書かれている。本書を通して著者は「コーポラティズム」の危険性を強く訴えている。さらに著者は、ブッシュジュニア以降の常軌を逸したアメリカの政府・マスコミの現状を記すことで、3.11以降に同様な道を行んでいる日本に警鐘を鳴らしている。多くの重要な話題に言及したため、少し散漫な印象を受ける、また対立のある問題についても、一方の側のみからの取材である。しかし、本書からは是が非にでも伝えたいことがたくさんあり、とにかくそれを早く伝えなければ、との著者のただならぬ危機感が伝わってくる。「コーポラティズム」の主要プレイヤーであるマスメディアの情報を、批判しつつ冷静に分析し「正しいこと」を考えるためにも、ぜひ一度手に取って読んでみてください。

●辻本 尚弥(健康・スポーツ科学センター)



10

パレード

吉田 修一 著／幻冬舎 刊…………… ¥533(税別)

●和智 麻里(法学部学生)

現実世界にさまざまな悩みや不安を抱えている
今の若者にぜひ読んでほしい作品。

読み終わった後、私は呆然とした。まさか、こんな結末で終わるとは思ってもみなかった。この小説はさまざまな悩みを抱える5人の若者たちが2LDKのマンションで共同生活を送る話である。主人公が若者であるので、大学生の私にも共感できる部分があってもおもしろい。またこの小説は表現が繊細で、頭にその場景が浮かびやすかった。この小説の構成は5人それぞれの視点から独特の展開をとげていく。5人の若者一人ひとりの特徴や考え方を細かく丁寧に描写している。また、読んでいる読者にしか分からないその若者たちの裏の顔も見ることが出来る。展開が予想できず、読んでいて飽きない作品である。この作品は、二度、三度と読み返すことでよさが増すと思う。現実世界にさまざまな悩みや不安を抱えている今の若者にぜひ読んでほしい作品である。

11

龍馬の黒幕

明治維新と英国諜報部、そしてフリーメーソン

加治 将一 著／祥伝社 刊…………… ¥ 667 (税別)

●宮原 一生(法学部学生)

歴史が好きな人だけに限らず、色々な人に読んでもらいたい一冊。

この本を最初に見た時、龍馬を殺害した犯人が分かるのかととても胸が高鳴った。幕末にイギリスの貿易商(武器商人)であるトーマス・グラバーなどのフリーメーソンが、どのように日本に介入し、龍馬を利用し暗殺したのかを歴史的検証を基に筆者の推理により書かれている。龍馬暗殺の首謀者は未だに謎で日本の最大の謎の1つと言っても過言ではないと考えられる。この本を読む前はよくある“眉唾物”や、“荒唐無稽なオカルト的”読み物かと考えていた。しかし読んでみると、とても説得力のある仮説をたて読みやすくまとめてあるのでとても分かりやすい。龍馬がどのような時代にどんな人物達と出会い、どのような一生を送ったというような事も詳しく書かれている。歴史が好きな人だけに限らず、色々な人に読んでもらいたい一冊です。ぜひ読んでみてください。オススメです。

12

23分間の奇跡

ジェームズ・クラベル 著／集英社 刊…………… ¥ 480 (税別)

●中野 佑紀(法学部学生)

自由とは、国家とは、教育とは何か…

23分間で何が出来るだろうか。この本は、23分間で子どもたちの集団心理が誘導されていく過程が描かれている。物語は午前9時に始まり、9時23分に終わる。戦争に敗れ、占領されたある国の学校のひとつのクラスの中に新しい先生がやって来る。先生は、生徒たちに様々な疑問を投げかけていく。その中で生徒たちの考えが大きく変わってしまう過程が、たった23分の出来事である。この本を読み終えたとき、私は今まで読んだ本とは全く違う気持ちがあった。私たちが普段生活している中にも集団心理がたくさん起こっているのだと感じた。今の世の中の教育、政治にも一種の集団心理が入り込んでいるのだと思った。自分で善悪を判断しているように思っている、実は他人の思惑に乗せられているだけかもしれない…

自由とは、国家とは、教育とは何かを深く考えさせられる本である。



13 すべてがFになる

森 博嗣 著／講談社 刊 ¥733(税別)

●大久保 優希(商学部学生)

精密でハイレベルなトリック!
ミステリー好きには見逃せない一冊。

密室でひとりの天才が殺された。殺害現場は離島にそびえたつ研究所。そこはあらゆるものがコンピュータ制御された近未来建造物だった。被害者が殺害された時刻の監視映像を調べると、犯行時刻には何物も出入りした形跡がなかった。さらに現場はカメラにも見張られた完璧な密室状態であった。精密でハイレベルなトリックに大学教授とその教え子が挑む!

理系ミステリー作家森博嗣が描く大人気シリーズの第一件。ミステリー好きは見逃せない一冊である。



14 彼岸過迄

夏目 漱石 著／新潮社 刊 ¥1,300(税別)

●富崎 優花(商学部学生)

内向的な近代知識人の苦悩な恋愛物語。

『彼岸過迄』は夏目漱石の後期三部作の第一作目です。この作品は、前作の『門』から一年半、さまざまな意味での「死」をくぐってきた漱石にとっての新たな再出発であり、『吾輩は猫である』を書いた出発点への回帰でもある、といわれています。

本作は、誠実だけど行動力のない内向的性格の須永と純粋な感情を持ち恐れるところなく行動する彼の従妹の千代子との恋愛問題を主軸にした、自意識をもてあます内向的な近代知識人の苦悩を描いた物語です。

時代状況、男女関係、親子関係、自己自身との関係など、解決されない、出口がない問題。それらの光景を写生文で描いたこの作品を、読まれたことのない方は一度、じっくり読まれてみてはいかがでしょうか。あまり文学作品に触れたことのない方でも、感情移入が出来る、大変読みやすい話なので気軽に手に取ることが出来ると思います。是非読んでみてください。

15

不可能性の時代

大澤 真幸 著／岩波書店 刊…………… ￥780(税別)

●浦元 駿(文学部学生)

現在は多義的であり得体の知れないもの。

本書では、見田宗介氏の「理想の時代 1945～60年」「夢の時代 60年～75年」「虚構の時代 75年～90年」をベースに論じている。大澤氏は、「現実から逃避」するのではなく、むしろ「現実へと逃避する」者たちに対して彼らはいったい何を求めるのか。そして、現代社会における普遍的な連帯の可能性はあるのかということ念頭に置いて述べている。

大澤氏は見田氏の理論を引きながら、「虚構の時代」の後の段階は、「不可能性の時代」であると本書で述べている。では、「不可能性の時代」とはどのような時代なのだろうか。先に例にあげた三つの時代は、それぞれ特徴があるため想像が容易である。しかし、現在がどのような時代であるかという問いに対しては、即座に答えることは難しい。なぜなら、今生きている時代が、多義的であり、得体の知れないものであるからだ。

本書は、私達が暮らす<現在>の骨格を浮き彫りにしてくれる。本書を通して<現在>について考えることは、過去を考えることであると同時に未来を考えることになる。以上が、本書を紹介する理由である。

16

広田弘毅 「悲劇の宰相」の実像

服部 龍二 著／中央公論新社 刊…………… ￥860(税別)

●島崎 一真(法学部学生)

戦争前後の指導者は何を考え、日本をどこへ導こうとしたのか？

なぜ日本は日中、太平洋戦争へ向かったのか？その疑問に一人の人物を中心に本書は見えていく。その人物は福岡県出身で初めて総理大臣に登りつめた広田弘毅である。広田の従来のイメージは、戦争に反対を願いながら、東京裁判で唯一文官(軍人でない)で処刑になる「悲劇の宰相」であった。しかし、筆者はその広田のイメージにNOを突き付ける！

最新の資料をもとに軍部の圧力に負け、国民の強硬論に流されたひ弱な政治家であったと批判する。広田はもともと欧米とも良好な関係を築きつつ、アジアとの関係を重視する政治家であった。そんな彼がなぜ、変わってしまったのかというところも見どころだ。近年、日本を取り巻く東アジアの状況は緊迫してきている。その根本の問題は先の戦争にある。当時のことを知らない世代が多くなったからこそ、知りたい！戦争前後の指導者は何を考え、日本をどこへ導こうとしたのか？広田という福岡の先輩から見えていくのはどうでしょうか？

さらに従来の広田像をつくった城山三郎氏の小説『落日燃えゆ』も御井図書館にはある。そちらも一緒に見ていくのも面白いのではないのでしょうか？本書は城山氏への挑戦状である。



17

韓国はなぜキリスト教国になったのか

鈴木 崇巨 著／春秋社 刊…………… ¥2,200(税別)

意外に知らない「近くて遠い国」。

この本のタイトルを見て、以前海外で知り合った韓国人の多くがクリスチャンであったことを思い出した。儒教の国、韓国では、何と35.7%がキリスト教徒であり(日本はわずか0.88%)、それも1960年から30年の間に急増したこと。韓国は世界第2位の宣教師派遣国であること。当然、政界、財界、教育界に多大な影響力を持つキリスト教徒。北朝鮮にあるピョンヤンは、かつて「東のエルサレム」と呼ばれ中心的伝導地であったという。なぜ、韓国はこのように大きな宗教的変化を成し遂げてきたのか。本書は単に韓国のキリスト教の話ばかりではなく、その背景にある韓国の歴史(たとえば260年続いた日本の鎖国だが、韓国も519年も続いていたこと)、文化、国民性(恨：ハン)、そして避けて通れない日本軍による弾圧なども説明している。「韓流」ブームは続いているが、意外に知らないことが多い「近くて遠い国」であることを実感する。

●河内 千栄子(法学部)



18

日本をダメにしたB層の研究

適菜 収 著／講談社 刊…………… ¥1,300(税別)

●満留 圭史(文学部学生)

現代の人々の考えにするどく指摘。

2000年代から今にかけて「改革」「コスパ」となどという言葉が当たり前のように使われていて、世間の人々にはそれがいい言葉として捉えている。

しかしそうだろうか。「改革」によって今まであったよい伝統が壊されてしまうことや、「コスパ」によって、コストパフォーマンスの悪いものは、すべて悪いようなレッテルを貼られている。このような例もあるのにいい言葉として使っているのだろうか。

僕の紹介する本は「改革」や「コスパ」などを悪い側面も考えずにあたかもいい言葉のように使う「B層」を哲学者の筆者が批判するものである。「改革」や「コスパ」だけでなく現代の人々の考えなどにもするどく批判しているのでぜひ読んでみてください。



19

ディコンストラクションⅠ、Ⅱ

ジョナサン・カラー 著／岩波書店 刊…………… ¥2,400(税別)

●河井 俊博(文学部学生)

「脱構築」の手法を用いることで、どんな批評が可能であるのか。

本書は「ディコンストラクション」、日本語では「脱構築」と呼ばれる概念が、文学批評にとって持つ意味について、文学理論や実際の批評作業を通して紹介されている。「脱構築」自体は哲学者ジャック・デリダが提唱したことであるが、本書ではポール・ド・マンや、バーバラ・ジョンソンなど多くの文学者を引用しながら、「脱構築」の手法を用いることで、どんな批評が可能であるのか、そこからどんな問題が浮上するのかを考察している。

興味深いのは、その地平が文学批評にとどまらず、社会的な価値観や政治制度にまで及ぶことだろう。それは、取り扱うテーマが作品として描かれているだけでなく、実社会の問題として内在しているからだと思う。その意味では、批評において、気休め程度にしか批判することができなかった社会に対する問題を、根本的な意味でラディカルに問うことができる視野を見出すことができるかもしれない。



20

人はなぜ勉強するのか

～千秋の人 吉田松陰～

岩橋 文吉 著／モロロジー研究所 刊…………… ¥1,000(税別)

自分の人生を考えるきっかけにぜひ!

人はなぜ勉強するのか？また、なぜ勉強しなくてはならないのか。あなたはなぜ大学に来たのか？こうした問いにあなたならどう答えますか。一度しかない大事な人生をどう生きるべきか。あなたは今どんな夢を持っていますか。自分の持ち味や得意なことは何でしょうか。社会の中でどんな役割を果たせるだろうか、こうした人生設計を考えてみることは学生時代の中でも最も重要なことです。本書はこうした人生の問いに対して向きあい、自分の人生を考えるための本です。そして、自分の人生を少年時代から青年時代にかけて100パーセント発揮して我が国の歴史的大変革である明治維新の先駆けとなり、ついに歴史に名を残す人(千秋の人)となった吉田松陰の生涯と、その心血を注いだ勉学の実態をじっくりと理解するための本です。この本を読んであなたの人生について考えるきっかけを作ってみてください。

●永池 克明(商学部)



21

リスクのモノサシ —安全・安心生活はありうるか

中谷内 一也 著／日本放送出版協会 刊…………… ￥970 (税別)

現実には白から黒まで無限グラデーションの世界である。

本書は日常生活で直面するリスクに対して、合理的に対処するための適切なモノサシ作りを提案している。多くの人々は、マスコミが扇情的に流すリスク情報に対して、認知的負荷の低い「周辺的ルート処理」により判断してしまいがちだと著者は書いている。実際日々のニュースに対して、我々は安易に解を求めがちである。しかし「周辺的ルート処理」では、白か黒かの二分法になりやすく、パニックを引き起こしやすい。現実には二分法ではなく白から黒まで無限グラデーションの世界である。ベネフィットとコストをうまくバランスして複雑な問題に対処するには、リスクを冷静に理解し判断したうえで許容できることが必要になる。よりよい社会で、生活の当事者として暮らしていくには、リスクへの対応を少し楽にする「モノサシ」の作成・理解は必要である。本書を読み終えても「問題解決!」のようなすっきり感は得られない。しかし現実を合理的に考えるきっかけとして、ぜひ一度読んでみてください。 ●辻本 尚弥(健康・スポーツ科学センター)



22

地を這う祈り

石井 光太 著／徳間書店 刊…………… ￥1,600 (税別)

「疑問・怒り・悲しみ」に、進行形で対峙している記録。

ある密着取材のテレビ番組をみて、著者の石井光太氏に「プロの書き手」のすごさを感じ、私は本書を手にとった。本書の「そで」には著者の近影がある。禿頭に髭、鋭い目、強固な意志を感じさせるかなり強面の風貌である。先のテレビ番組では、講演にきた一般の聴衆に対する言動も刺すように鋭かった。しかし、本書の「はじめに」に書かれている「盲目の少女へ」を読んで、その風貌・言動から受けるのとは違った印象を感じた。文章は風貌と同様に、目の前にいる人を突き放しているよう淡々と綴られている。しかし、私はそこに拒否しない(少なくともそうしようと心に決めている)優しさを感じた。本書は絶対的な貧困というテーマや、その衝撃的な写真で注目されている。書評も賛否両論あり、取材やまとめ方の手法自体を疑問視するものもある。しかし、この本は、「はじめに」に書かれている十代の頃の衝撃的な体験から始まった「疑問・怒り・悲しみ」に、進行形で対峙している記録を綴ったものである。字面を追うとずっと読めてしまう、しかし立ち止まると読み手側が考えざるを得なくなる作品です。ぜひ一度手に取って読んでみてください。 ●辻本 尚弥(健康・スポーツ科学センター)



23

稼ぐが勝ち

ゼロから100億、ボクのやり方

堀江 貴文 著/光文社 刊…………… ¥1,200 (税別)

●杉本 瑠伶(法学部学生)

金持ちになる方法はあるけれど、金持ちになって君はどうするの？

みなさんは「ホリエモン」に対してどのような印象をもっているだろうか？おそらくお金に対して貪欲で抵抗感を持っている人が大半だと思う。私もこの著書を読む前はそのような印象をもっていたが、読んでみると意外にも共感できることが多く堀江貴文という人物に興味を湧き始めたのだ。著書の中で「人の心はお金で買える」「女はお金についてくる」など大胆な言葉がある一方で「基本的に忠実になれ」「できないではなくどうやったらできるのかを考える」「若いうちほどリスクが少なくチャレンジすれば必ず結果は生まれる」「何をやるにしても気合と根性が必要。複雑に考えずにシンプルにやるべきことをやる」といった私たちに奮い立たせてくれるような言葉が多く綴られている。これは並大抵ではない努力と経験を積んできた堀江貴文だからこそ言える言葉だと思った。今の自分のためにも将来の自分のためにもぜひ一度手に取ってほしい一冊である。同著者による「君がオヤジになる前に」「金持ちになる方法はあるけれど、金持ちになって君はどうするの？」(徳間書店)もオススメです。



24

スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン

一人々を惹きつける18の法則

カーマイン・ガロ・井口 耕二 著/日経BP社 刊…………… ¥1,800 (税別)

●法村 和幸(商学部学生)

明日からでも使えるテクニックが盛り沢山。

生きていくなかで、人と話したりプレゼンテーションをしたりして、誰かに何かを伝えなければならない機会は数多い。この本は、Apple社の創設者として有名なスティーブ・ジョブズ氏のプレゼンテーションにおけるテクニック等を解説したものである。ジョブズ氏のプレゼンテーションをとおして、「他人にものを伝えるとはどういうことか」ということの本質を説明している。この本のすごいところは、明日からでも使えるテクニックがたくさん盛り込まれており、何より、ジョブズ氏の実際のプレゼンテーション動画を見ながら読むことで、面白さが何倍にも膨れあがるところにある。一読する価値の大きい本である。

25

人生はワンチャンス！ —「仕事」も「遊び」も楽しくなる65の方法

水野 敬也・長沼 直樹 著／文響社 刊…………… ¥1,400 (税別)

●増本 雄介(商学部学生)

悩んだり挫けたりしたときに励ましてくれる一冊。

この本には、たくさんの偉人の言葉が詰め込まれています。突拍子もないことを言っているのではなく、ちょっとした努力や、考えを変えるだけでいい、ごく単純なことを言っているところに心が惹かれます。そんな言葉の中から2つ紹介しましょう。まず1つ目は、チャールズ・チャップリンの「下を向いたら、虹を見つけることはできないよ。」です。つらくても悲しくてもうつむいては何も変わらない。上を向いていればきっと何か素晴らしいものを見つけることができるということです。2つ目は、ヘレン・ケラーの「山の頂上に立つ喜びは、もしそこへ至るまでに越えるべき暗い谷間が一つもなければ、半減されるでしょう。」です。確かにそのとおりで、そう思って過ごせば、辛いことや悲しいこともその先にある幸福のために頑張ることができると思いました。悩んだり挫けたりしたときに励ましてくれる一冊です。

26

人生がときめく片づけの魔法

近藤 麻里恵 著／サンマーク出版 刊…………… ¥1,400 (税別)

●加賀田 沙織(文学部学生)

片づけ方法を見直してみたいという人におすすめ。

片づけは多くの人が出たことがあるが、自分の片づけ方法に自信のある人は一体どれほどいるのだろうか。本書では幼少の頃から片づけが好きで、現在は片づけコンサルタントとして働く著者が、誰にでもできる片づけの方法について分かりやすく述べている。例えば、衣類ひとつとってもTシャツのたたみ方から靴下の収納方法まで、何をどのようにしてどんな順番で片づけを進めればよいのか具体的に説明してあるためとても分かりやすい。私はこの本を読んで「本来片づけで選ぶべきなのは、『捨てるモノ』ではなく『残すモノ』だ」という言葉が一番印象に残った。片づけで人生が変わるといって大袈裟に聞こえるかもしれないが、片づけによって日常生活がより楽しくなることは間違いないだろう。片づけが苦手、片づけ方法を見直してみたいという人におすすめの1冊である。ぜひこの本を読んでときめくものに囲まれた素敵な生活を送っていただきたい。

27

食の安全と環境

—「気分のエコ」にはだまされない

松永 和紀 著／日本評論社 刊…………… ￥1,600 (税別)

理工

「功」の効果も摂取量によっては「罪」に転化する。

本書は「地球と人間の環境を考える」シリーズのうちの一冊である。著者はフリーランスの科学ライターとして、一貫して「食」や「農」の問題に取り組んでいる。「食」に関する書籍は世の中に数多あり、誰しものがなにか一家言を持っている。この手の本の多くは、「良い食品」や「正しい食べ方」あるいは「食品添加物や農薬は悪だ」のように非常にわかりやすい視点で書かれている。しかし、考えてみれば「食べ物」それ自体に身体や健康への功罪が存在し、「功」の効果も摂取量によっては「罪」に転化する。こう考えると「食」や「農」も他のすべての事象と同じように、「ゼロリスク」はないし、白か黒かのような単純な二分法では話ができないことを理解できる。本書はこの点について、「バランス」を取ることの難しさを、具体例を挙げつつ平易に書いている。リスクに関する多くの書籍がそうであるように、「どうすればよいのか」についての明快な答えは本書には示されていない。しかし、だからこそ「考えること」のきっかけとして、読むべき価値のある本である。同著者の「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学 (光文社新書)」とあわせて読んでみてください。

●辻本 尚弥(健康・スポーツ科学センター)

28

科学とはなにか

—科学的説明の分析から探る科学の本質

森田 邦久 著／晃洋書房 刊…………… ￥2,400 (税別)

理工

●浦元 駿(文学部学生)

〈科学〉を疑うことによって科学的思考を養う。

本書では「科学とはなにか」という疑問から、〈科学〉という境界線を論じている。普段、私達が想像する科学というのは、自然科学といったいわゆる理系の分野である。しかし、文系の分野にも人文科学や社会科学といった「科学」がある。そう考えると私達が生活している日常には科学があふれているものの、〈科学〉という線引き自体は成功しているとはいえない。

著者は、〈科学〉をもう一度見直し、一般的に疑似科学と呼ばれているものについて議論している。〈科学〉を疑うということは今ある日常を疑うということにも結びつく。この行為は、私達が生活していく中で、応用できる思考法である。最初は理学的な内容のため困惑するかもしれない。しかし、本書は丁寧に説明されているため、じっくり読めば理解することができる。「なぜこの本を読むのか」と考えてしまうこともあるかもしれない。しかし、読み終えれば、本書で養った科学的思考が日常でも活かせるということを実感することができるであろう。

29

量子革命

—アインシュタインとボーア、偉大なる頭脳の激突

マンジット・クマール 著／新潮社 刊…………… ¥2,800 (税別)

●黒田 圭吾 (経済学部学生)

量子の謎に挑んだ天才物理学者たちの100年史。

本書は量子力学の発展に貢献した者たちの、人生とその苦悩とを紹介しているばかりでなく、一般的な量子理論も記述している。

量子力学は難しいと言われている。「本当に理解している者は一人も居ない」とか、「物理学者でも本当のところは理解できていないのだから、物理学者でない者にわかるはずがない」と。勿論量子力学には未解決の問題があるし、量子力学の数学を扱うにはそれなりの準備がいるらしい。しかしそれを言うならば、古典力学の草創期も現在の量子力学と同じような状況ではなかったのだろうか。古典力学にも当初は深い謎や、パラドックスが存在した。例えばニュートンの重力理論で記述される重力は、遠く隔たった物体同士に力が瞬時に伝わるという遠隔作用、非局所的相互作用であるため、中世の呪術的な世界に逆戻りするもののだとして、ライプニッツをはじめ多くの知識人に厳しく批判された。遠隔作用でない重力理論がアインシュタインにより与えられたのは、後年の1916年である。量子力学にはまだまだ謎は多いが、これを読むことで漠然と捉えていた天才達の姿、天才達が有していた僅かばかりの思慮が想起されるでしょう。

30

模倣の経営学

偉大なる会社はマネから生まれる

井上 達彦 著／日経BP社 刊…………… ¥1,800 (税別)

まねをすることで多くのことを学んできた。

最近の世の中では、革新や改革、イノベーションといった言葉を過度に美化し、多用しすぎであると感じることがあります。そうした言葉はアピールのためには役に立つかもしれませんが、猫も杓子もそうした言葉を使っているという感が否めません。

革新や改革、イノベーションといった言葉をいたづらに用いるという風潮は、ともすれば、現在あるものや先人の行ってきたことを軽視するということにもつながりかねないのではないのでしょうか。

本書では、そうした言葉とは対極にある「模倣」、すなわち人のまねをするということに焦点を合わせて、模倣することの意味や、何をどのように模倣するべきかなどといったことを議論しています。

誰もが子供のころに人のまねをした経験があることでしょう。そして、まねをすることで多くのことを学んできたのではないのでしょうか。本書を通じて、模倣ということの意義について、あらためて考えてみてください。 ●奥井 秀樹 (商学部)

31

トイレ掃除の経営学

—Strategy as Practice アプローチからの研究

大森 信 著／白桃書房 刊…………… ¥2,800 (税別)

世界初の「トイレ掃除経営論」!

本書は「トイレ掃除がきちりできるようになると会社が良くなる」ということを主張し、その理由を詳細に述べた本です。

一見「そんなバカな」と思ってしまうかもしれません。しかし、こうした主張は、あなたが間違っていないのです。主に製造業の現場などにおいて、品質管理・作業効率向上等を目標とした施策の一環として、以前から「5S活動」、すなわち「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」という頭文字にSのつく5つのことをしっかりとしようという活動が行われてきました。こうした5Sをしっかりとできるということが、日本企業の強みの1つであるといわれることもあります。

本書では、トイレ掃除という言葉を前面に出しつつも、そうした5S活動の持つ意味について深く考察を行っています。トイレ掃除という華々しさとは対極にある地道な活動が、実は企業経営にとって意味を持っているというロジックを知りたくはありませんか?

●奥井 秀樹(商学部)

32

自律する組織人

鈴木 竜太 著／生産性出版 刊…………… ¥2,000(税別)

キャリア設計について興味がある人、必見!

我が国においては、一昔前は「いい学校を卒業して、いい会社に就職する」という考え方が広く世間に根付いていました。現在大学に通っている皆さんの中でもこうした考え方を引きずって「いい会社に就職できれば人生安泰」と思っている人がいるのではないのでしょうか。

しかし、時代は刻々と変わってきています。一昔前はいい会社に入って会社に人生を預けておけば安泰であったかもしれませんが、そうした考え方は徐々に通用しなくなりつつあります。会社に人生を預けるのではなく、自分でキャリアを設計して人生を切り開いていくことが求められる時代になってきているのです。

本書は、そうした時代背景を踏まえて、どのように自分のキャリアをつくっていけばよいのか、会社とはどう付き合っていけばよいのかといったテーマに対して一つの答えを示しています。

キャリア設計について興味がある人は、ぜひ読んでみてください。

●奥井 秀樹(商学部)

33

地域産業の新たな展開

—九州・山口からの挑戦

財団法人九州経済調査協会 編／西日本新聞社 刊…………… ¥1,700 (税別)

可能性を秘めた18の地域産業を紹介。

政治・経済・文化など、さまざまな面において東京への一極集中の傾向を見せる我が国ですが、地域産業をいかに創出し活性化するかということは地方に暮らすものにとって非常に重要なテーマです。自分の住む地域に目立った産業がなければ、その地域の税収や労働者の平均賃金も落ち込み、活気がなくなってしまいます。また、自分の生まれ育った地で暮らしていきたいと願っても、その地域に職がなければ都会に移住せざるを得ないということにもなってしまいます。

本書は、九州・山口を対象として、これから大きく躍進する可能性を秘めた18の地域産業を紹介しています。

九州・山口で暮らしていきたいという希望をもっている方は、是非ともこの本を読んで、どうすれば自分の慣れ親しんだ地域を盛り上げることができるのか考えてみてください。そうすることで自分を活かす道が見つかるかもしれません。

●奥井 秀樹(商学部)

34

全契約社員の正社員化

—私鉄広電支部・混迷から再生へ(1993年~2009年)

河西 宏祐 著／早稲田大学出版部 刊…………… ¥6,100 (税別)

全員正社員化という成果を勝ち取る。

近年、我が国の企業はパート・アルバイト、派遣社員、契約社員等のいわゆる「非正社員」を積極的に活用するようになってきています。非正社員でありながら、重要な職務の担当となり職場にとってなくてはならない存在である人も少なくありません。

そのように、今や企業にとって重要な存在となった非正社員ではありますが、仕事内容に見合う待遇を受けているとはいえない状況があります。彼らと正社員の間には大きな待遇の格差が存在しているのです。

そして、そうした格差は「世代間格差」ともなり、上の世代の正社員の待遇を維持するために、若者が非正社員として低賃金・不安定な状況で働かなくてはならないという状況をも生み出しています。

本書は、そうした非正社員の一つである契約社員達が、会社からった稀有な事例が記されています。その事例を通じて正社員と非正社員という2つの雇用形態について考えてみてください。

●奥井 秀樹(商学部)

「本学OPAC」で簡易検索

1 にキーワードを入れて検索

マイライブラリ

2 NACSIS目録にチェックすると他大学の所蔵を検索できます

・貸出中圖書の予約

3 にチェックして「予約」をクリック

4 ログインすると予約ができます

予約	予約人数	期年	所在	請求記号	資料ID	貸出区分	状況	備考
<input type="checkbox"/>	1名	0	動井図書館/2階学芸室	913.6 Y16w	10643145		貸出中(2013/01/31)	

ログインすると「マイライブラリ」であなたの貸出や予約などの情報が確認できます

5 終了時は必ずログアウトする

今までに借りた履歴が見られます



たとえば、ある課題に際して、書物・雑誌・データベース・ネットワーク・インターネットなどを駆使して情報を収集。そのプロセスを経て、書物の愉しさ、奥深さを味わい、情報メディアを使いこなすスキルを身に付け、レポートや論文を仕上げたり、教養や知識を身につけたり、あるいは就職活動に役立てる場。それが図書館です。ここでは皆さんが御井図書館を楽しく使っていただくための第一歩となる「図書館ウェブサイト」の見方と活用法を紹介します。実際に図書館に足を運ぶ前に、しっかりとチェックしておきましょう。

左側はデータベース等が配置されています

「本学OPAC」で 久留米大学の所蔵を検索

貸出中の書籍も「マイライブラリ」から貸出延長手続きをすることもできます

新聞のデータベース

あらゆる検索サービスから新聞記事の検索ができます

百科事典・辞書などを検索 できる「Japan Knowledge⁺」

日本国内で発行中の40以上の辞書や辞典を擁するデータベースです

法律関係や企業情報などの データベース

データベース一覧で詳細 を閲覧

図書・雑誌を図書館で探す

マイライブラリ / 本学OPAC / CiNii Books / NDL-OPAC / Webcat Plus / 久留米市立図書館

図書をオンライン書店で探す

honto / amazon.co.jp / Books.or.jp
日本の古本屋 / スーパー源氏
BOOK TOWNじんぼう

雑誌の論文・記事を探す

CiNii Articles / 雑誌記事索引集成 (戦前)
雑誌記事索引 (戦後) (NDL-OPAC)
magazine plus / Web OYA-bunko

新聞の記事・写真を見る

聞蔵Ⅱビジュアル (朝日新聞)
ヨミダス歴史館 (読売新聞)
バビルス (西日本新聞)
日本経済新聞電子版 (パブリック) / 佐賀新聞
/ 神戸大学新聞記事文庫 / 毎日フォトバンク
よみうり写真館
御井図書館で購読中の新聞一覧

その他の学術研究用ツール

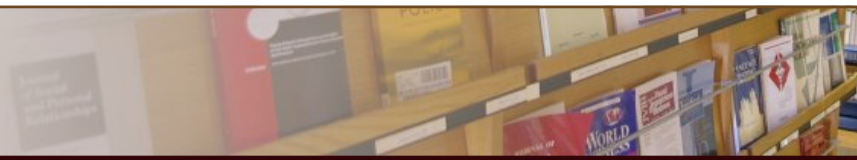
国立国会図書館サーチ (NDL Search)
日外e-レファレンス・ライブラリー
Japan Knowledge+ / Google Scholar
Facts on File Online Databases / LEX/DB
第一法規法情報総合データベースD1-
Law.com / 法律文献総合INDEX / Westlaw
International / JURIS Online / メディカル
オンライン
医中誌Web / PubMed / 流通情報
総合企業情報データベースeol
OECD iLibrary / 国際問題 / J-STAGE
KAKEN: 科学研究費補助金データベース
インターネット版「官報」
◆電子ジャーナル・電子ブック検索
◆文献管理ツール: RefWorks

> 久留米大学学位論文一覧

>> データベース一覧

図書館を使いこなすのは大学生の当たりまえ

ウェブサイトを活用して図書館の達人になろう



お知らせ

- ▶ 2014/02/04 システム切り替えに伴う利用者用PCサービス停止について
- ▶ 2014/01/28 図書館向けデジタル化資料送信サービス開始について
- ▶ 2014/01/06 春季休暇中の長期貸出について
- ▶ 2013/12/05 御井図書館ニュース (No.84) を公開しました
>>過去のお知らせ

御井図書館からのお知らせ

図書館からの最新のお知らせを速報します

開館カレンダー

2カ月分の開館日、開館時間が分かります
出掛ける前にチェックしましょう

【期間】2014年3月1日(土)～2014年3月9日(日)
【場所】1階、3階：閲覧室(大)・閲覧室(小)・MMR
また、3月1日(土)～3月2日(日)は、学内外問わず
断続的にネットワークが停止いたします。
ネットワークに接続できない時は、時間をおいて
再接続してください。
この期間に利用できないサービスは下記のとおりです
・OPAC(蔵書検索)




カレンダー

□ 8:45～21:00 □ 10:00～18:00
■ 9:00～17:00 □ 閉館日

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	
3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

>>年間予定 2013年度(PDF)

>>年間予定 2014年度(PDF)

-  図書館
利用案内
-  御井図書館
ニュース
-  知の玉手箱
-  館内平面図
-  ハーウッド
文庫
-  学内専用
-  利用者
アンケート

御井図書館の利用について

1. 図書館の利用に際して

パソコンを利用する際は、蔵書検索(OPAC)専用のパソコン以外は情報教育センターのアカウントが必要です。

2. 開館時間について

- ① 平常 月～金曜日 8:45～21:00
- ② 長期休暇期間 月～金曜日 9:00～17:00
- ③ 土・日曜日 10:00～18:00

3. 休館日について

祝祭日(成人の日、海の日以外)、創立記念日(4/28)、盆休み(8/15)、年末年始(12/29～1/3)、学年暦により開館日が変更となることがあります。臨時休館する場合は館内に掲示いたします。

なお、詳細は御井図書館ホームページを参照して下さい。

4. 貸出冊数と期間について

- ① 学部学生 10冊 2週間
- ② 大学院生 20冊 1ヶ月

5. 延滞図書について

図書の返却期限を過ぎると貸出停止のペナルティーが科せられます。

御井図書館ホームページ

<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib>